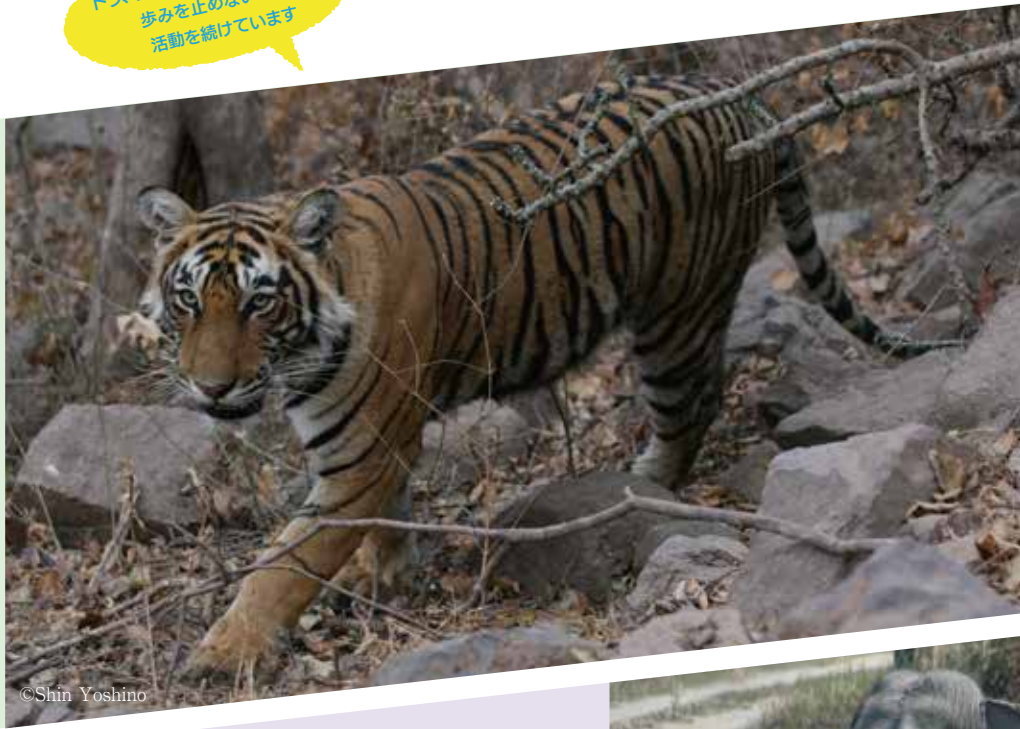


トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコの
歩みを止めないよう、
活動を続けています



©Shin Yoshino

トラ保護基金

P2

- ・中央インドのトラ保護区で
パトロール用装備を、森林火災予防
グッズを贈呈しました。
- ・南インドでトラと人との
コンフリクト防止のため
教育普及プログラムと、トラの監視
用ドローンを支給し、使用トレーニ
ングを行いました。

ゾウ保護基金

P4

- ・南インドのゾウ・コリドーで
森林火災の防止にあたる森林局スタッフ
に装備を支給しました
- ・56年ぶりにやってきた野生ゾウ
と地域住民の間のコンフリクトを防ぐた
め住民の緊急対応チームを支援しました
- ・ワシントン条約で
国内象牙市場をオープンにしている日本
などが関係した違法象牙押収データの解
明を求め、CoP19で採択されました



©WTI

イリオモテヤマネコ 保護基金

P6

- ・交通事故防止のための
ヤマネコ目撃地点でのパトロール、
注意喚起活動を継続しています
- ・西表島の子どもたちへの
ヤマネコのいるくらし授業は、島
内3つの学校と西表ヤマネコクラ
ブで実施しました
- ・イリオモテヤマネコの日
西表野生生物保護センターでフン
分析体験の講師を務めました

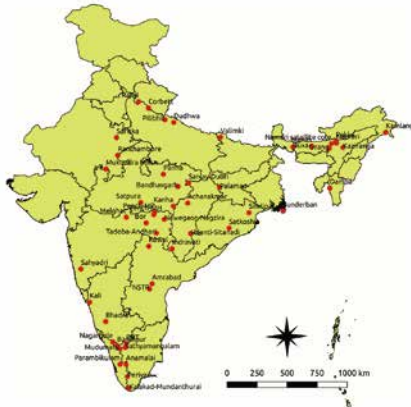


©Susumu Murata

インドのトラ生息地支援プロジェクト

中央インド

Map showing locations of Tiger Reserves in India



トラ保護区(赤丸)は、中央インド、次いで南インドに集中しています

中央インドは「トラ天国」ともいわれ、世界のトラの8割程度を占める約3,000頭が暮らすインドの中でも、保護上重要な地域です。カーナ、サトゥプラ、ペンチ、メルガート、タドバ・アングリ、ナグジラ・ナワゴン等多数の保護地域を含む熱帯落葉樹林帯とトラの移動に不可欠な森林コリドーがトラを育てています。これらの地域は、マハラシュトラ、マディアプラデシュ、チャティスガル、ビハール州の一部、テランガナ州にまたがります。

テランガナ州のカワル・トラ保護区でのパトロール活動支援

カワル・トラ保護区に含まれるタンドラ森林管理区域は、チークの違法伐採と森林火災の多発地点です。ティペシュワール野生生物保護区から移動するトラが、少なくとも年3、4回の頻度で記録されており、数年前までは、地域住民が設置した電気柵によって感電死させられていました。トラ以外にもヒョウ、サンバー、ドール、ナマケグマがしばしば森林局が設置した自動撮影カメラに写っています。

ところがこのエリアには、森林内の駐在キャンプなどの基本的な設備が整っておらず、スタッフも不足しています。

そこで、保護区の(コアエリアの外側にある)バッファゾーンで森林局は14名の補佐員と野生動物監視員を日雇いで採用しましたが、彼らには基本的な現場装備も与えられていません。

このような状況下のため、効果的な現場パトロールの実施が困難な状況です。そこでJTEF/WTIは、2023年1月、CCTVカメラ、懐中電灯、無線機、浄水用フィルター、テント、折り畳み式マットレス、小型ソーラー発電機、ミネラルウォーター、弁当箱、バックパックを臨時スタッフたちへ支給しました。



マディアプラデシュ州のカーナ トラ保護区での森林火災予防のための支援

カーナ・トラ保護区は、インドで最も有名な保護区の一つです。しかしマディアプラデシュ州はインドの中でも2番目に森林火災リスクの高い州で、2022年11月から2023年6月半ばまでの間に、4万2000件もの森林火災警告が発令されています。そこで火災予防パトロール強化のため、150名の現場スタッフに対し、装備を詰めるバックパックを送りました。



南インド

南インドは、中央インドに次いでトラの個体数が多い地域ですが、近年トラと人とのコンフリクトの激化がハイライトされ、社会問題となっています。

カルナータカ州のコダグ県およびその周辺でのコンフリクト防止対策

カルナータカ州は推定524頭と、インドで2番目にトラの個体数が多い州です。このトラたちが、バンディプール、ナガラホール、ピリギリ・ランガナーサ・テンプル (BRT) 等のトラ保護区の間を行き来する際、人間活動との間でコンフリクトが発生しています。2021年には前年比37%増しとなる434件の発生でした。

トラによる家畜の損害については森林局が飼い主へ補償をしていますが、支給までに2、3か月かかっています。さらに、2022年には4人がトラに殺され、村人たちはますますいきり立っています。そこでJTEF/ WTIは緊急支援プロジェクトとして、トラの被害を受けることが多い8つの村から参加した住民ら143名を対象に、野生生物と調和してこらすことの重要性和コンフリクトのリスクを最小化する方法について教育普及プログラムを実施しました。また、これらの村から集めた10人のボランティアの手で、コンフリクト発生情報がアップデートされるようになりました。



カルナータカ州コダグ県での教育普及プログラム(上)
トラとのコンフリクトを監視する住民ボランティア(下)



© 吉野信

ケララ州ワヤナッド・エリアでトラを監視してコンフリクトを防止すべく、ドローンを導入

ワヤナッド・エリアでは、森林内のトラの獲物が減少しているため、トラが食物を求めて森を出て、村の家畜を獲物にするようになりました。最近1か月で13頭の家畜が殺されました。1つの村では農民を殺したと考えられるトラが麻醉銃で撃たれ、保護施設に収容される事態にもなりました。そこで、人の居住域を定期的に徘徊しコンフリクトに至るトラを監視するためのドローンを森林局に支給し、WTIのスタッフがドローン使用のトレーニングを行いました。



ドローン使用の訓練を受けた森林局スタッフら

寄付のお願い

地球温暖化の影響も受け、森林火災リスクが各保護区で高まっています。火災予防パトロール強化へのご寄付をお願いします！

■インドのゾウ生息地支援プロジェクト

南インドにおける活動エリアは、ケララ州北部のワヤナッド・エリア。約6,500頭からなる世界最大のアジアゾウ個体群の生息地の一部となっています。



©WTI

ワヤナッド・エリア



このエリアの山火事シーズンは1～3月がピーク。森林局が雇い

あげた30名の臨時監視員はゾウ・コリドーでの森林火災を監視し、人とゾウとのコンフリクトの緩和、密猟監視もこなします。このゾウ・コリドーは、開発によって細くなり、大きな森林火災が起これば途切れてしまいます。そこで、2023年1月、30名の監視員にバックパック、水筒、弁当箱、配給食糧を支給して士気を高めてもらいました。



ワヤナッド・ノース森林管理区域バラヤルの臨時監視員たちにバックパックその他の支援物資を支給

中央インドでは、2022年8月、ゾウの群れが56年ぶりにマハラシュトラ州のある地域へ現れました。ゾウのいる暮らしへの記憶がない人々の間にパニックを引き起こしかねない状況です。地元の自然保護活動家の尽力もあり周辺の8つの村を代表する4名からなる緊急対応チームが編成されました。



マハラシュトラ州ガッチェロリ県に突如出現したゾウの群れ(左)



村人で編成される緊急対応チーム(右)

緊急対応チームは森林管理局と協力して、6回にわたり、ゾウの群れを村から遠ざけ、森林の中へ移動させています。こうして、農作物被害は最小限に食い止められました。また、1,000人にのぼる住民への意識喚起も実施されました。

■緊急支援

「IUCN/SSCアジアゾウ専門家グループ」の運営支援！

アジアゾウ専門家グループ (AsESG) は、21か国から111人の専門家メンバーが参加する、アジアゾウ保護の「知恵袋」。ところが、AsESGの運営は、相当部分が世界のアジアゾウにかかわるNGOその他の団体のサポートにより支えられており、JTEFも支援に加わりました。



AsESGを支援する「パートナー」(左)、3月アジアゾウ生態研究の第一人者ラーマン・スクマー博士と日本人唯一のメンバーであるJTEF事務局長(2023年にデリーで開催されたAsESG会合にて) (右)

□ 象牙市場閉鎖プロジェクト

ワシントン条約CoP19に参加。 国内象牙市場閉鎖の推進をはたらきかけ

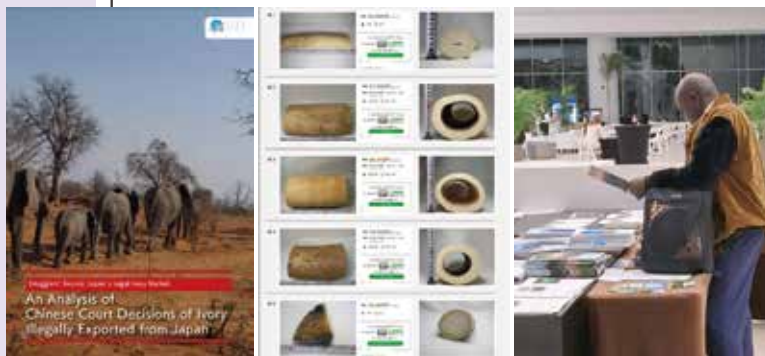
2022年11月14～25日、パナマシティ（パナマ）でワシントン条約CoP19が開催され、JTEFからは理事長および事務局長がオブザーバー参加しました。この会議で、アフリカゾウが生息する9か国から、国内象牙市場を閉鎖していない国（日本など）が関係した、違法に取引された象牙の押収データを分析することが提案されました。日本政府は強く反発。JTEFは世界の24のNGOを代表して発言し、日本からの象牙の違法輸出の実態等を指摘しました。審議の結果、修正案が成立し、未閉鎖国に関する象牙押収データの分析は、2023年の常設委員会で進捗状況が報告され、2024年の常設委員会（およびその翌年のCoP20）に結果報告がなされることになりました。



左から、審議再開を求めるブルキナファソ、意見を述べるJTEF事務局長

中国で処罰された 日本からの象牙密輸をレポート

JTEFは、中国政府が公開する刑事裁判の判決情報を検索、その内容を分析したレポートを公表しました。



左から報告書表紙、ヤフオク!で落札された「象牙風」の商品、CoP19会場でJTEF報告書を手に取る参加者

把握された45の事件中、10件（23%）には日本人が、少なくとも4件（8%）には日本の法律に基づいて登録された象牙取引業者が事件に積極的に関与していることがわかりました。1年5か月越しに3.26トンが密輸出された事件の象牙を供給していたのも、日本の登録象牙業者です。別の2件に関与していた業者は、「象牙風」とうたって象牙を（象牙販売を禁止している）ヤフオク!で販売していました。日

本から中国への象牙密輸出事件の組織犯罪性が高いことがわかりました。

東京都に、都内の象牙市場を閉鎖する条例を 速やかに検討するよう、はたらきかけ

東京都「象牙取引規制に関する有識者会議」が、2022年3月に提言した条例の検討は、今も実行されていません。

そこで、JTEFと16の世界のNGOは、2023年1月、小池百合子東京都知事に対して、都内の象牙市場を閉鎖するための条例制定を求める要望書を送りました。5月末には、JTEFと協力関係にある米国NGO：EIAのダニエル・グラビエル氏が来日、JTEFとともに、東京都を訪問して早期の条例検討を求めました。



2023年6月14日付東京新聞6面「米団体、都に規制強化要求」

6月14日には、東京都議会第2回定例会本会議において、玉川ひでとし議員が、外国人観光客数増加により海外への象牙持ち出しリスクが高まるので、条例など対策の強化が必要ではないか、と小池百合子都知事に質問しました。担当局長は「国際情勢等も踏まえながら、象牙の違法取引の根絶に向けた取組を強化してまいります」と答弁しています。

寄付のお願い

今年11月にジュネーブで開催される常設委員会に参加し、象牙市場閉鎖が加速するようプッシュします。ご支援をお願いします。

2023年の交通事故は現在のところ0！

2023年は（6月14日現在）イリオモテヤマネコの交通事故は発生しておりませんが、梅雨入りしてからは路上の生きものも増え、親子連れで道路を横断しているヤマネコや、昨年独り立ちしたであろう若いネコの目撃情報が増えています。特に最近ではホネラ地区（島の北東部）で、若いネコの路上出没が続いており、通りかかった島民や観光客から目撃情報や撮影された写真の提供を受けています。やまねこパトロールでは、目撃多発地点での注意喚起や草刈りにも力を入れていきます。

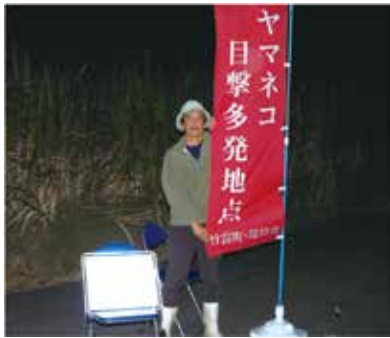


©村田行



西ホネラで出ている若いネコ 写真提供:小堀舞さん

新たな取り組み「注意喚起活動」と、コロナ後の西表島



新型コロナウイルスの影響で、入島者数が減少していた西表島でしたが、2023年のGWは、WHOのコロナ緊急事態宣言の終了が発表されたことや、マスクの着用が個人判断になったこともあり、4年ぶりに多くの観光客が訪れるGWになりました。GWはちょうど、ヤエヤマヒメボタルの発生時期とも重なりナイトツアーの交通量も多くなるため、期間中は、ナイトツアーの交通量が多い稲葉林道～美田良付近を重点的にパトロールしました。

また、昨年から目撃多発地点で行っているLED看板やのぼりを用いた注意喚起活動についても継続して実施しています。2022年12月～1月に

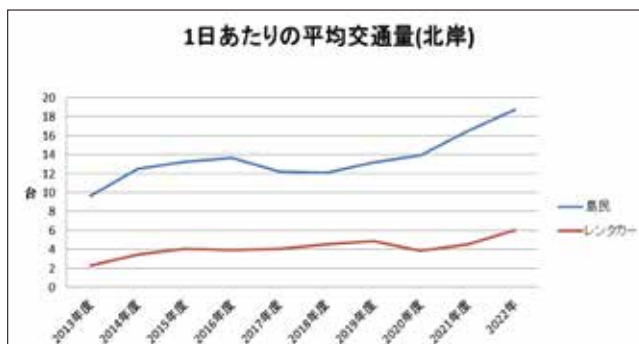
かけて相良川と前良川でヤマネコの路上出没が多発した際にも実施し、ヤマネコの目撃が無くなるまで継続しましたが、実際に付近を走行する車両の速度が低下していることが分かり、ヤマネコの交通事故も起きなかったことから効果を実感しています。

寄付のお願い

7月からはいよいよ夏休みになりますが、世界自然遺産効果によってコロナ前の水準を超える観光客が訪れることも予想されています。夜間パトロールや注意喚起活動を強化していきますので是非ご支援下さい！（クラウドファンディングも企画しています。8頁参照）

2022年度夜間パトロール

2022年度の夜間パトロール活動は、後良～船浦、中野～白浜の2区間で計153回行いました。遭遇した通行車両は全部で4186台。うち速度を計測することが出来た3151台のデータを分析したところ、平均速度は38.4km/hで、過去最低だった昨年(38.7km/h)をさらに下回るデータとなりました。一方で、過去10年間交通調査を行っている北岸道路の位置パトロールあたりの平均交通量は今年も増加していることが分かりました。新型コロナウイルスの5類移行によって、西表島の夜間交通量はさらに増加することが予想されます。イリオモテヤマネコの交通事故を防ぐためにパトロール活動を強化していきます。



ヤマネコの いるくらし 授業

2022年度の子ヤマネコのいるくらし授業は、上原小学校、西表小学校、大原中学校、西表ヤマネコクラブで行いました。毎年、続けている自動撮影カメラによる調査では、西表小学校の校庭裏で、ついにイリオモテヤマネコの撮影に成功しました。以前、白浜小学校の校庭でもそれらしい影が映りこんだことがありましたが、ここまではっきり撮影できたのは初めてです。島民の暮らしがある集落の中、それも学校の敷地内にイリオモテヤマネコが訪れる環境が残されている「西表島の自然の豊かさ」を再確認する出来事でした。今年度の西表小学校の授業では、校庭内に複数のカメラを設置して、イリオモテヤマネコがどのように校庭を利用しているかを生徒の皆さんと観察する予定です。



イリオモテヤマネコの日

4月15日はイリオモテヤマネコの日! 2023年の記念行事は、2015年に竹富町条例で定められて以来、初めての竹富町主催で企画運営を(一財)西表財団が受託する形で行われました。やまねこパトロールは16日に環境省西表野生生物保護センターで行われた「ヤマネコのフン分析講座」の講師として参加。島内外から集まった10名の参加者とイリオモテヤマネコのフンを洗い、イリオモテヤマネコがどのようなものを食べているかを分析しました。フンの中から鳥の羽、コウモリの爪、ネズミの毛、カエルの骨などが出てきたことを踏まえた、イリオモテヤマネコの食性や、イリオモテヤマネコを支える西表島の豊かな生態系について解説しました。



▶ JTEF第7回オンラインイベント

「世界最大・最後の象牙市場：日本はどうなる？
ワシントン条約CoP19 報告」を開催

2023.1.21

昨年11月、パナマで開催されたワシントン条約CoP19に参加したJTEFが、どのように日本政府へ圧力をかけていったか、そして今後について、坂元事務局長が報告しました。参加者28名



お知らせ：JTEFオンラインイベント「世界最大・最後の象牙市場：日本はどうなる？ワシントン条約CoP19報告」2023年1月21日 15時～

▶ 仙台の八木山動物公園にて

野生のゾウと象牙目的の密猟について戸川理事長が講演

2023.2.22

事前申込み制で若い聴衆者が多く最後の30分間の質疑応答は非常に活発。ゾウ人気の強さと真剣にゾウの保護を考える方たちの姿に感動しました。



▶ 世界野生生物の日 2023.3.3～5

「君もアニマルレンジャー」でトラの密猟について
トラの密猟についてのトークとブース出展

@上野動物園

3月3日は世界野生生物の日。いまだに続くトラの密猟の話をした後は、チャリティグッズを買って下さる方が殺到。皆さんの気持ち、大切にさせていただきます。



▶ 「第28回竹富町やまねこマラソン」に参加

2023.2.11

チームやまねこパトロール「マラソンは飛ばしてもクルマはゆっくりね！」を合言葉に参加しました。夏のような暑さになりましたが、皆無事完走しました。



お知らせ

イリオモテヤマネコを
交通事故から守るために

夜間パトロールと

注意喚起活動を強化するための 2023/7/1～8/31

クラウドファンディングを実施します！

コロナ後の交通量増加に備え、夜間パトロールの強化と、目撃多発地点での注意喚起活動を充実させるため、それに使用するLED看板、のぼりなどの装備の追加購入資金を求めます。ご協力よろしくお祈いします。



クラウドファンディングのQRコード



世界トラの日

(7月29日) イベントに
ブース出店

@上野動物園 予定

世界ゾウの日(8月12日) イベント

「ゾウ大使講座」を横浜市立金沢動物園、
横浜市立ズーラシア動物園とコラボで実施

2023/8/5, 8/26 (事前申込制：金沢動物園のHPをご覧ください)

▶ 世田谷白梅福祉作業所の 2023.3.8

「しらゆめ春まつり」でブース出展

▶ アースデー Tokyo2023でブース出展

2023.4.15-16

雨・晴れ・そして雷までも。地球が怒っているような変な天気の中、ブース出展し大勢のお客様にアピールしました。不動の人気を誇るグッズの作者、ヒサクニヒコさんも顔をだしてくださいました。



▶ 横浜市立金沢動物園

イベントでブース出展 2023.4.15-16

「わくわく広場」で、子供から大人まで楽しめるさいころを使つてのゾウのクイズと動物グッズ販売。6種のクイズに何度も挑戦する人もいました。

【JTEFの賛同者】

- 相澤登喜恵さん(動物肖像画家)
- 新井晴みさん(俳優)
- 池田卓さん(シンガーソングライター)
- 井上奈奈さん(現代アーティスト)
- 岩田好宏さん(子どもと自然学会顧問)
- 牛越峰統さん(一般社団法人日本プロサーフィン連盟名誉顧問)
- 大森享さん(元北海道教育大学教授)
- 岡田彰布さん(阪神タイガース監督)
- 小川潔さん(東京学芸大学名誉教授)
- 加藤登紀子さん(シンガーソングライター)
- 蟹江杏さん(版画家)
- 見城美枝子さん(青森大学副学長・エッセイスト)
- 巨勢典子さん(作曲家・ピアニスト)
- 小林裕児さん(画家)
- 権藤真禎さん(元社団法人兵庫県自然保護協会理事長、元神戸市立王子動物園園長)
- 坂本美雨さん(ミュージシャン)
- 沢田研二さん(歌手)
- 瀬木貴将さん(ミュージシャン、JTEF野生動物親善大使)
- 田中豊美さん(動物画家)
- 田中裕子さん(俳優)
- 田畑直樹さん(公益財団法人日本動物愛護協会理事長)
- 土居利光さん(前恩賜上野動物園園長、日本パンダ保護協会会長)
- 並木美砂子さん(帝京科学大学特任教授)
- 根本美緒さん(フリーキャスター・天気予報士)

- 南ぬ風人まーちゃんうーぼーさん(三線アーティスト)
- ヒサクニヒコさん(漫画家)
- 平若弓枝さん(作家)
- 訃報 今年6月に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げ、今までのご厚情に心より感謝申し上げます。
- 福井崇人さん(アートディレクター)
- 福田豊さん(恩賜上野動物園園長)
- 藤木勇人(志いさー)さん(断家)
- 古沢広祐さん(國學院大学客員教授、「環境・持続社会」研究センター(JACES)代表理事)
- 前川貴行さん(動物写真家)
- 松田陽子さん(シンガーソングライター)
- 水野雅弘さん(株式会社TREE 代表取締役)
- 三石初雄さん(東京学芸大学名誉教授)
- 宮下実さん(ときわ動物園名誉園長、元近畿大学教授、大阪市天王寺動物園名誉園長)
- 村田浩一さん(公益社団法人日本動物園水族館協会会長、日本大学生物資源科学部特任教授)
- 森川純さん(酪農学園大学名誉教授)
- 山極壽一さん(総合地球環境学研究所所長、前京都大学総長、京都大学名誉教授/進化論・生態学・環境生物学・動物学)
- 山崎薫さん(学校法人ヤマザキ学園理事長)
- 吉野信さん(動物自然写真家)
- 渡辺貞夫さん(ミュージシャン)
- 五十音順

JTEFの活動をご支援ください！

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

年間サポーター費・随時(任意額)寄附のお支払方法

JTEFのウェブサイトから、クレジットカードで簡単に寄附いただけます。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。
ゆうちょ銀行
口座番号：00170-7-355897
加入者名：トラ・ゾウ保護基金



認定NPO法人
トラ・ゾウ保護基金
http://www.jtef.jp/

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F
Tel : 03-3595-8088 Fax : 03-3595-8090
E-mail : hogokikin@jtef.jp https://www.jtef.jp
郵便振替口座：ゆうちょ銀行 口座番号)00170-7-355897
加入者名)トラ・ゾウ保護基金

トラ保護基金通信 vol.41
ゾウ保護基金通信 vol.38
イリオモテヤマネコ保護基金通信 vol.27
発行人・編集：戸川久美
発行日：2023年6月30日